

平成 29 年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立烏丸中学校)

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標 授業で活動等を工夫して取り入れるとともに、家庭学習の習慣化を進め、進路保障を図る。	
具体的な取組 ・年度当初の授業にて、「学習のはじめに」プリント等で年間の学習計画や学習のしかたを周知 ・言語活動や小集団活動を積極的に取り入れた授業の実践 ・自らの将来に夢や希望を見出すための系統的なキャリア教育の推進 ・家庭学習の定着と習慣化 ・定期テスト一週間前の学習計画表の点検と指導 ・夏期休業中や放課後の補充学習 ・家庭学習とリンクさせた学習確認プログラムの予習シートとフォローアップシートの活用 ・10分間の朝読書の充実 ・グループ授業研究や、授業公開週間の実施 ・小中連携を柱に、中高連携・中中連携を通して、12年間を見通した中学3年間の子どもたちの成長を支援する。	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・全国学力診断テスト ・学習確認プログラム ・学習アンケート ・提出状況チェックシート ・生活アンケート ・進路希望調査 ・教育相談	
各種指標結果 (1 回目) ・各教科とも言語活動、小集団活動の取組は定着しているようである、今後はさらに主体的な学びへと、繋げていきたい。 ・チェックシートの結果、未提出者が数名いるのが課題である。 ・9月に実施された進路希望調査では、公立全日制普通科39%、専門学科24%、私立30%、その他2%となっている。	
自己評価	分析 (成果と課題) ・学力テストは満足できる結果となってきている。しかし、家庭学習の時間や内容に課題が見られることや、各学年ともに支援を要する生徒への組織的対応が不十分であることが露呈している。
	分析を踏まえた取組の改善 ・年度当初にグループ活動、学び合い活動の意義を再確認し、各教科で実施する体制作りを進める。 ・各教科が宿題を活用した家庭学習の定着を図る。 ・特別支援教育委員会で LD 等の支援体制を確立していく。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学習指導に一定の成果が現れてきているようである。また、家庭学習の実態が明らかになったことは良いことである。進路に関する取組も継続させ、今後、様々な情報を細かく保護者に知らせてほしい。 ・オープンスクールや休日参観で授業の様子を直接見られる機会を活用する。 ・ホームページや懇談会で家庭学習の必要性について知らせていく。 ・進路指導に関する面談を例年通りⅡ期は２回実施する。	
	評価日 平成 29 年 10 月 26 日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（２回目） ・学力テストの結果は全国平均より各教科とも高い。また、確プロの結果も全市の中では上位にある。 ・家庭学習の習慣化といった点では、ある程度の定着は見られるが、中身については改善の余地がある。		
自己評価	分析（成果と課題） ・ほとんどの教科で小集団活動や学び合い活動が展開され、その結果が学力テストに反映されているようである。 ・課題としては、支援を要する生徒や学力低位生徒への組織的な支援が弱いことがあげられる。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・年度当初にグループ活動や学び合い活動の意義や内容を確認し、積極的に取り組む体制を作る。 ・支援を要する生徒や学力低位生徒への対応として、学生ボランティアや総合育成支援員の協力のもと、放課後学習を実施する。また、総合育成支援教育委員会で支援策の対応などについて検討していく。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学力向上に向けての取組が一定の成果を生んでいるようである。また、学校が落ち着いた雰囲気ですべて学習できていることも要因の一つとなっている。 ・進路に関する様々な情報をきめ細かく保護者に伝えてほしい。 ・授業参観や進路説明会などへの積極的な参加を呼びかける。	
	評価日 平成 30 年 3 月 8 日	評価者 学校運営協議会

(2)「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>人を思いやる心を培い、自分自身を大切にできるように、規範意識を高めはじめある生活を送る。</p>		
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>学校生活目標の J(時間)・A(挨拶)・S(掃除)を本年度も中心において何時でも意識させる。</u> ・<u>新たな目標の『心の目標』も、何時でも意識させる。</u> ・あいさつをする習慣を定着させる。(登校時・下校時・授業時のあいさつ) ・学校行事や集会などで、生徒が前に出て活動できるようにして、自信につなげる。 ・生徒会活動の中心に話し合い活動をおき、自分たちの考えを伝えたり相手の発表を聞く力をつける。 ・集会時の校歌斉唱の定着 ・美化意識を高くして、環境を充実させる ・人権教育や道德教育を通じて、豊かな感性と情操を育む。 ・成功体験を分かち合える絆を強くする集団づくりの推進 ・部活動を中心に規律ある良好な人間関係づくり ・学校内のあらゆる場面での生徒・教職員の日常的な人権を意識した言動 ・携帯電話教室等を実施して、自分や自分以外の人々を守っていける取組 		
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価アンケート ・生徒アンケート 		
	<p>各種指標結果 (1 回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰に対しても挨拶すること」の質問に対し、重要度は 5. 9 と高いが、実現度は 4. 7 と少し低い。 ・「学校の雰囲気が良いこと」の質問では、重要度は 5. 9 で実現度は 4. 9 である。 ・「自分の事を大切な人間だと思うこと」「自分に自信をもつこと」「自分の事を表現すること」の各項目において、1 年生は重要度が 6. 3 と非常に高いのに対し、2, 3 年生は 5. 3 と 1 ポイントも低い。ただ、実現度はどの学年も 4. 0 前後と低くなっている。 		
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒集会や体育祭、文化祭の取組では、後輩は先輩を見て自分もこうなりたいという、良い雰囲気が作られている。今後は目標達成に向けての粘り強さや自尊感情を育てていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした「あいさつ運動」や集会の企画・運営を今後も推進していく。 ・地域行事への参加や、職場体験、総合的な学習の時間を活用して、地域貢献などの活動を行うことで自己有用感、自己肯定感を育成していきたい。 		
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や行事を通し、上級生が下級生の良い見本となり、良い雰囲気が作られつつあるので、小規模校ならではの良さをさらに活用し、豊かな心の育成に努めてもらいたい。ただ、目標を達成するための根気が欠けることが課題として残る。 ・地域、保護者、PTA の協力により、学校とともに子どもたちの育成に努めていく。 <table border="1" data-bbox="193 2011 1455 2054"> <tr> <td>評価日 平成 29 年 10 月 26 日</td> <td>評価者 学校運営協議会</td> </tr> </table>	評価日 平成 29 年 10 月 26 日	評価者 学校運営協議会
評価日 平成 29 年 10 月 26 日	評価者 学校運営協議会		

各種指標結果（２回目）		
<ul style="list-style-type: none"> ・「誰に対しても挨拶すること」の質問では、１回目に比べ、どの学年も重要度が高くなっている。（平均すると６．２ポイント）また、実現度も上がっている。 ・「学校の雰囲気が良いこと」の質問では、重要度が１回目が平均５．９であったが２回目は６．６とかなり高くなった。 ・「自分の事を大切な人間だと思うこと」「自分に自信をもつこと」「自分の事を表現すること」の各項目は重要度が１回目は全体的に低かったが、２回目は各学年高くなっている。これにより、自尊感情や自己有用感の高揚に繋げたい。 		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に毎月行っている「あいさつ運動」や全校集会により、生徒の自尊感情の醸成が育成されつつある。 ・課題としては、地域行事への参加や地域貢献への積極性に欠ける点である。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒会を中心にあいさつ運動や全校集会の企画・運営をさらに推進していく。 ・伝統文化教育を通して、自己有用感の育成を助長する。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教育に関わる取組の中で、上級生は下級生を、下級生は上級生に対し互いに認め、尊敬し合う関係が見られる。 ・小規模校ならではの良さをさらに活用し、豊かな心の育成に尽力してもらいたい。 ・伝統文化教育の推進に向け、PTA や地域としてもできる限り支援をしていきたい。 	
	評価日 平成 30 年 3 月 8 日	評価者 学校運営協議会

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
保健教育・安全教育・防災教育の充実
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートによる朝食・睡眠・食習慣などの見直しと自己管理 ・薬物・非行防止教室の実施 ・交通安全教室の実施 ・実際の場面を想定した避難訓練等を通じて安全に対する意識を高める ・性に関する指導の実施 ・食教育の実施 ・健康教育（喫煙・アルコール・薬物など）の実施 ・部活動奨励と支援 ・リスクマネジメント研修と危機管理マニュアルの見直し ・<u>地域防災の拠点として、地域や小中が連携した学校のあるべき姿の模索</u> ・教育相談の実施 ・安全点検の実施 ・健康観察の実施

(取組結果を検証する) 各種指標		
・生活アンケート		
・各種教室後の生徒感想アンケート		
各種指標結果（１回目）		
・「悩みを相談できる場が学校にあること」の質問に対し、１年生と２，３年生で重要度が大きく違う結果になった。重要度１年２．９で２，３年５．８と倍の差が見られた。		
・携帯教室や非行防止教室では、薬物や SNS の恐ろしさがよくわかったという意見が多かった。		
自己評価	分析（成果と課題）	
	・生活面での大きな乱れはない。基本的な生活習慣の実現に向けて家庭と連携を強める必要がある。	
評価	・健康教育のさらなる充実が必要である。	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	・基本的生活習慣の定着に向けて家庭への協力を求める。	
	・健康教育をいっそう充実させるとともに、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの健全育成へ向けて取り組む。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	・スマホや携帯の使い方について家庭での指導が大事である。	
評価	・防煙や薬物乱用防止についての話題を家庭の中でするようにしてほしい。	
	・地域の大人や保護者同士のネットワークを強化し、子どもたちを地域で見守るように声かけをしていく。	
学校関係者評価	・防煙や薬物防止について地域でできるパトロールや呼びかけなどを積極的に行っていきたい。	
	評価日 平成 29 年 10 月 26 日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（２回目）		
・生活習慣は家庭の安定度が高く、比較的良いと思われる。しかし、学年が上がるにつれて乱れ気味になっている。		
自己評価	分析（成果と課題）	
	・ケータイや非行防止、薬物乱用防止の各教室での取組により規範意識が確立してきている。	
評価	・課題としては、避難訓練の充実と小学校との連携による防災教育の推進である。	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	・定期的にアンケートなどを実施し、日常生活の振り返りなどを行うことにより、規則正しい生活習慣の定着を推進する。	
	学校関係者による意見・支援策	
学校関係者評価	・地域や小学校と連携した防災教育の取組が必要である。	
	・小規模校ならではのメリットを活かし、合同部活動や他校との連携などにより、生徒のニーズに応えられるようにしていく。また、できる限り公式戦に出場する機会を与えてほしい。	
学校関係者評価	評価日 平成 30 年 3 月 8 日	
	評価者 学校運営協議会	

(4) 学校独自の取組

重点目標		
伝統文化教育の充実及び少人数を活かした教育の実践		
具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・各種伝統文化体験 (和菓子作り体験, 組紐作り体験, 茶道体験, 西陣織着付け体験, 陶芸教室, 百人一首大会など) ・体育祭などの縦割り集団の活用 ・少人数クラスの編成 (特に2年生) 		
(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者評価アンケート ・文化体験後のアンケート ・体育祭, 文化祭後のアンケート 		
各種指標結果 (1回目) <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の重要度は5.3, 実現度は4.1である。 ・「文化祭や体育祭など行事が充実していること」では重要度は6.2, 実現度は4.9と高い傾向にある。 ・「少人数を活かした取組をすること」でも重要度6.1, 実現度4.9と高くなっている。 		
自己評価	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教育は本校の特色ある取組として定着しつつあるし, 継続させていくべきである。少人数を活かした教育も概ね支持されているが, 反面部活動の種類の少なさに対する不満の声もしばしば耳にする。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどで取組をできる限りお知らせしたり, 紹介するとともにアンケートについての説明を添えるなどして, 学校の様子や取組をよりわかりやすいものにしていく。 ・小規模校のデメリットは受け止めつつ, メリットを大いに活用し, アピールしていく。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数ならではの一体感が生徒集会をはじめ, 文化祭や体育祭といった行事で多く見受けられる。この地域ならではの伝統文化教育も整理しながら継続するべきである。 ・費用面の課題があるので, 今後は公費た保護者負担とのバランスも検討していく必要がある。 	
	評価日 平成 29 年 10 月 26 日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果 (2回目) <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の質問では, 前回に比べ重要度も実現度も各学年0.6ポイントほど上昇している。 ・「学校行事が充実していること」の質問では, 前回に比べ重要度も実現度も各学年0.3ポイントほど上昇している。 ・「少人数を活かした取組をすること」の質問では, 2, 3年生は変化はないが, 1年生は実現度が0.4ポイント上昇している。 		

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教育は本校の特色ある取組として普遍化していく。 ・少人数を活かした教育も概ね支持されているので、今後も継続させていく。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教育の意義や方向性を年度当初の会議や研修会で共通認識し、全教職員が一丸となって取り組むことを確認する。 ・学力向上に向け、少人数教育をさらに推進していく。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数ならではの一体感が、体育祭や各種行事で見られる。 ・伝統文化教育を整理し、地域の特色を活かした教育として継続させたい。 ・地域の行事にたくさんの子どもたちが参加できるようにお願いしたい。 	
	評価日 平成 30 年 3 月 8 日	評価者 学校運営協議会